

調査と情報

編集・発行

(株)農林中金総合研究所 基礎研究部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3

TEL.03-3243-7331

FAX.03-3246-1984

URL: http://www.nochuri.co.jp

E-mail: sugano@nochuri.co.jp

二一世紀は環境の世紀といわれるが、この環境という視点も加え、「食」のグローバル化を考えてみたい。環境と「食」の問題については、既にいくつかの問題提起がなされている。

その第一は、食料貿易の不均衡が地球規模で窒素の分布をゆがめているという環境白書(一九九四年)における警告である。それは、長年にわたる食料の輸入超過がわが国を世界最大の窒素過剰国にし、その結果、酸性雨や沿岸域の富栄養化等の現象をもたらしているとの指摘である。

第二の問題提起は、イギリスの消費者運動家が同年に提唱したもので、「フード・マイルズ」という指標をもとに食

料供給の現状をとらえ、自分たちの食べる食料の運搬距離をできるだけ少なくしようという市民運動

食のグローバル化は必要か

の展開である。この運動は物の移動に伴って排出される二酸化炭素の削減を目的とするものである。

物の移動は食料に限ったものではないが、最近の水に関する指摘もあわせればその意義は大きい。すなわち、二〇〇二年版水資源白書では、農産物等の形で年間四百億トンもの水を輸入しているわが国の実態を明らかにしている。世界人口の二〇%の人が安全な水を確保できず、また、中東やアジア、ア

メリカなど世界各地で著しい地下水位の低下がみられ、将来の水資源不足の深刻化、さらには食料生産への悪影響も懸念される状況なのに、である。

このほかにも、家畜用輸入飼料への種子混入が

原因とされる外来雑草の繁殖問題、あるいは交雑による有害遺伝子伝播の可能性すら指摘される遺伝子組み換え作物問題等、生態系バランスに与える影響などについての指摘も多い。

こうした環境に関わる問題を別にしても、「食」のグローバル化には問題が多い。国連食糧農業機関(FAO)の報告によれば、食料不足に悩む人は二〇三〇年においてもなお四億人を越えると言われている。こうした状況下で、富裕国がその経済力にまかせて、しかも飽食のために、世界の各地から食料を買い集めることなど許されるはずもない。また、いわゆる生物の多様性同様、人類の多

様性も必要だ。「食」の多様性はその基本となる。「食」に限って言えば、「グローバル化」の美名の下にすべてを市場経済

に委ねるわけにはいかない。

さらに、昨今の各種報道では、禁止農薬や残留農薬の問題あるいは産地の偽装等食品表示にかかる問題等、「食」にまつわる問題が多くとりあげられている。関係企業等のモラル低下も指摘されるなど、事態はいつそう深刻だ。こうした問題の根底には、「食」を工業製品等と同様、単なる商品」と位置づけていることがあるのではないだろうか。「食」は人類生存の基本ともいうべきものであり、単なる商品ではない。国家が国民に対して責任を持つ最たるものとして「食」を位置づけることが必要であらう。(主席研究員 出村雅晴)

今月のテーマ：国内農業と食品産業

食のグローバル化は必要か.....	1
国内産業と食品産業の連携を考える.....	2
平成13年度食料安定供給対策基本調査...3~4	
国産加工原料用トマト生産の動向と課題...5~6	

ぶっくレビュー『JA改革の本流 農協は日本の食・農を担えるか』...	7
あぜみち.....	8
フードシステム.....	9
統計の眼「地産地消の学校給食に必要な視点」...	10
編集後記.....	10